

第2回 八千代町公共交通会議

八千代町における公共交通のあり方について

平成30年11月2日

1.地域の現状整理

1-1 人口動態

○八千代町の総人口は減少傾向にあり、2025年には2万人以下まで減少すると予測されています。
 ○一方で、65歳以上の人口は増加しており、2020年には高齢化率が30%を超えることが予測されています。

1) 総人口と世帯数

- ・人口：21,505人
- ・世帯数：7,139世帯

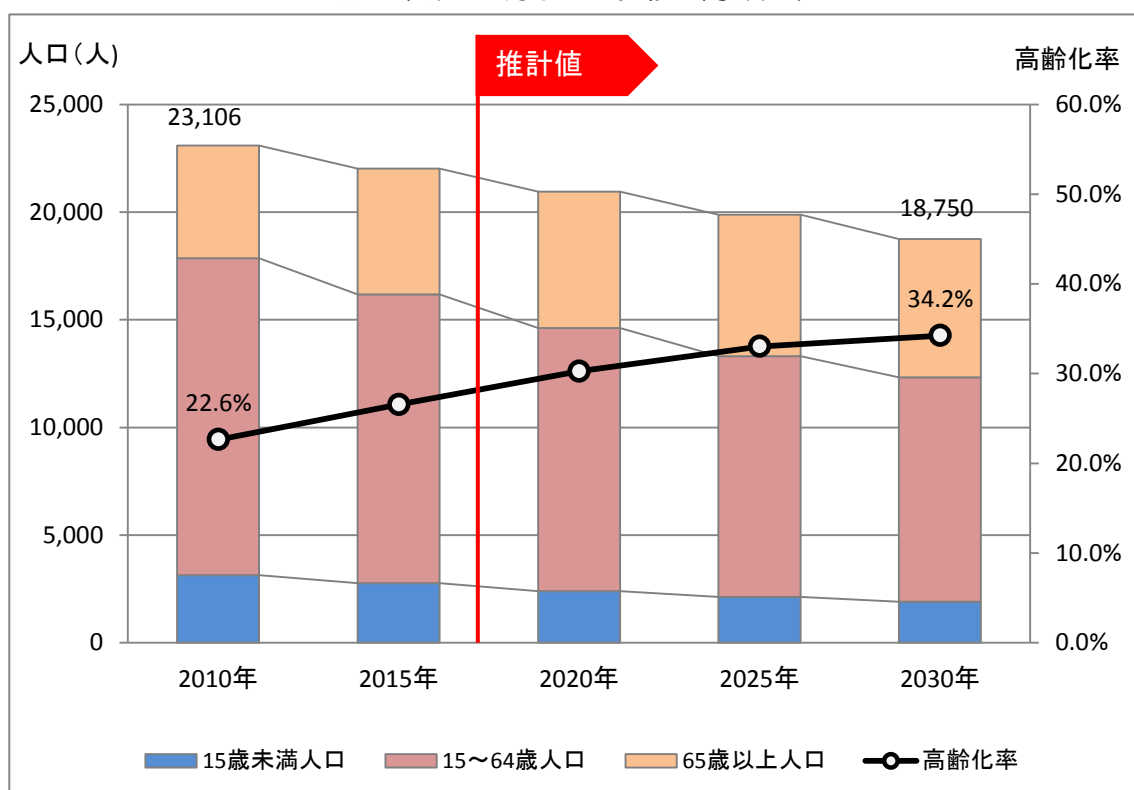
【出典】茨城県の人口と世帯（推計）平成30年9月1日現在

2) 人口推移と高齢化率

表 年齢三区分別人口推移と高齢化率

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
総人口	23,106	22,021	20,953	19,878	18,750
15歳未満人口	3,149	2,772	2,392	2,138	1,909
15～64歳人口	14,710	13,401	12,222	11,177	10,422
65歳以上人口	5,231	5,848	6,339	6,563	6,419
高齢化率	22.6%	26.6%	30.3%	33.0%	34.2%

図 年齢三区分別人口推移と高齢化率



【出典】国勢調査（H22～H27）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成29年推計）」

3) 高齢者の世帯

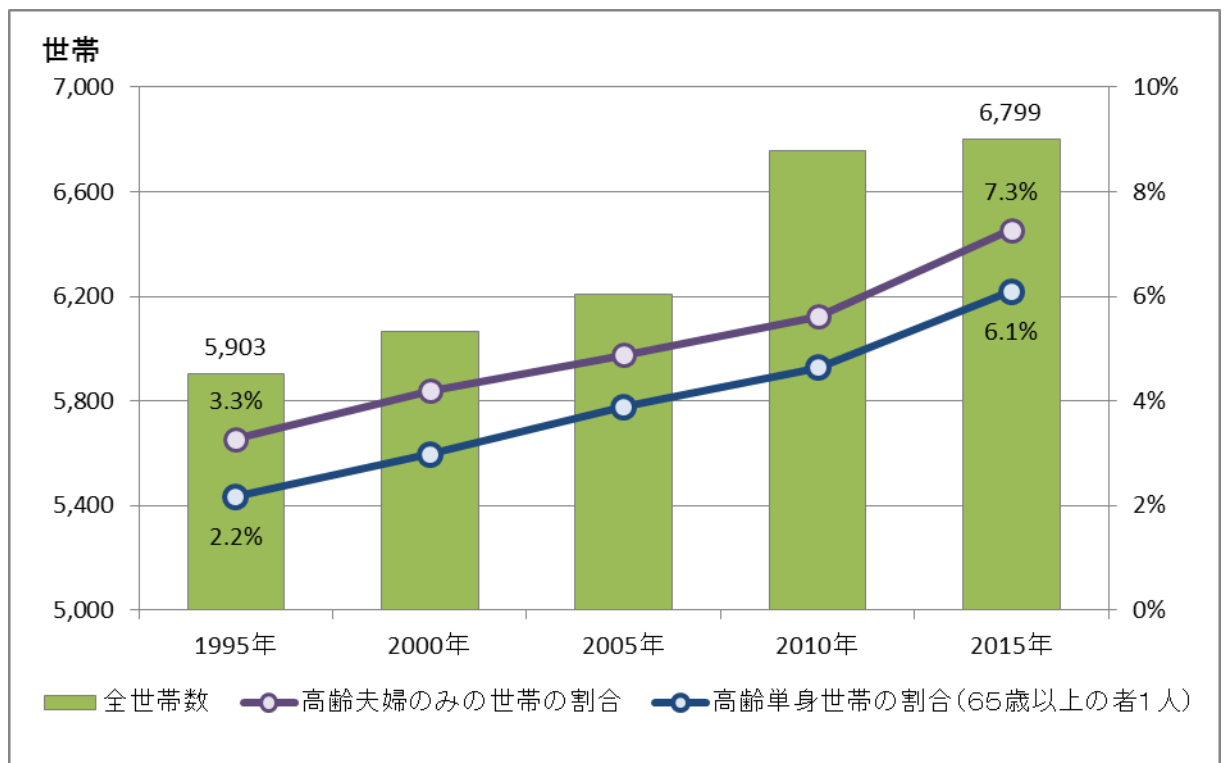
○世帯数の増加とともに、65歳以上の高齢者のみの世帯の割合も増加しています。

表 全世帯数と高齢者（高齢夫婦のみ・高齢単身）世帯の割合

(単位:人)

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
全世帯数	5,903	6,066	6,209	6,756	6,799
高齢夫婦のみの世帯数	193	254	303	379	494
高齢単身世帯数(65歳以上の者1人)	128	181	241	313	414
高齢夫婦のみの世帯の割合	3.3%	4.2%	4.9%	5.6%	7.3%
高齢単身世帯の割合(65歳以上の者1人)	2.2%	3.0%	3.9%	4.6%	6.1%

図 全世帯数と高齢者（高齢夫婦のみ・高齢単身）世帯の割合

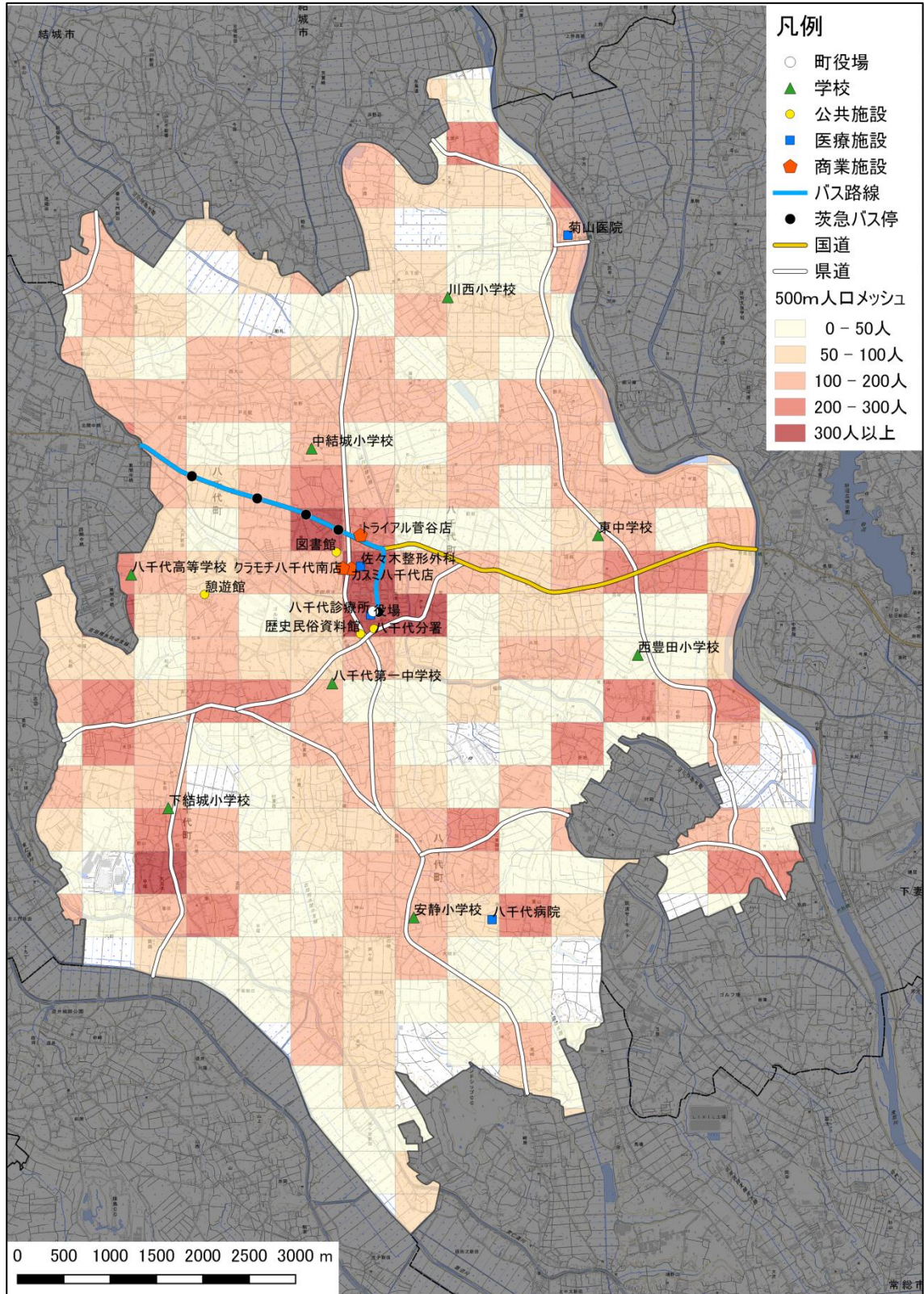


【出典】国勢調査

1-2 人口分布と主要施設

○人口は八千代町役場周辺の中心部に集中しているものの、町内全域に広く分布しています。
 ○主要施設も中心部に集約されているものの、教育施設や医療施設などは郊外部にも立地しています。

図 主要施設の立地状況



1-3 人の動きと移動手段

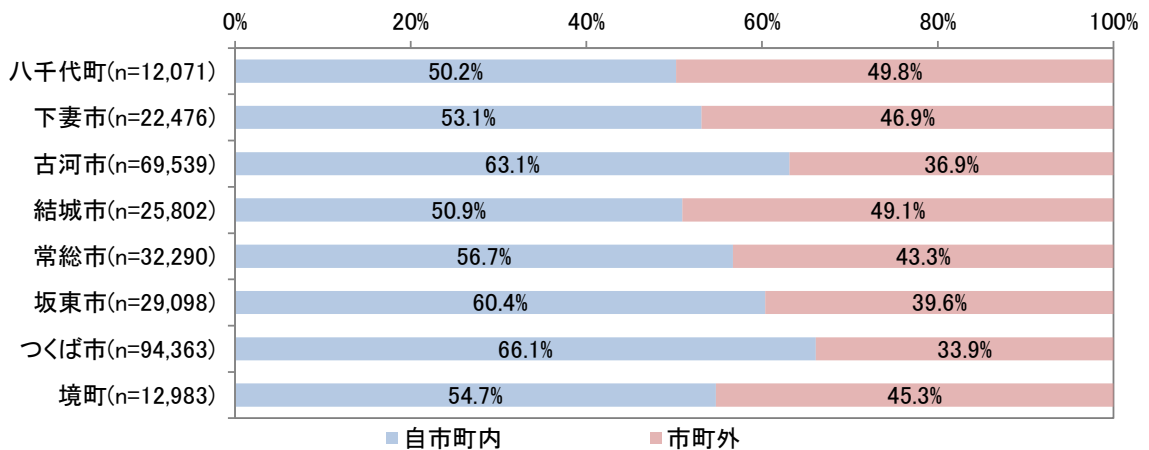
○通勤先は町内と町外が同じくらいの割合となっており、通学先は町外への移動割合が高く、町外は、下妻市や古河市への移動が多くなっています。

表 通勤・通学における流動状況（近隣市町との比較）

(単位:人)

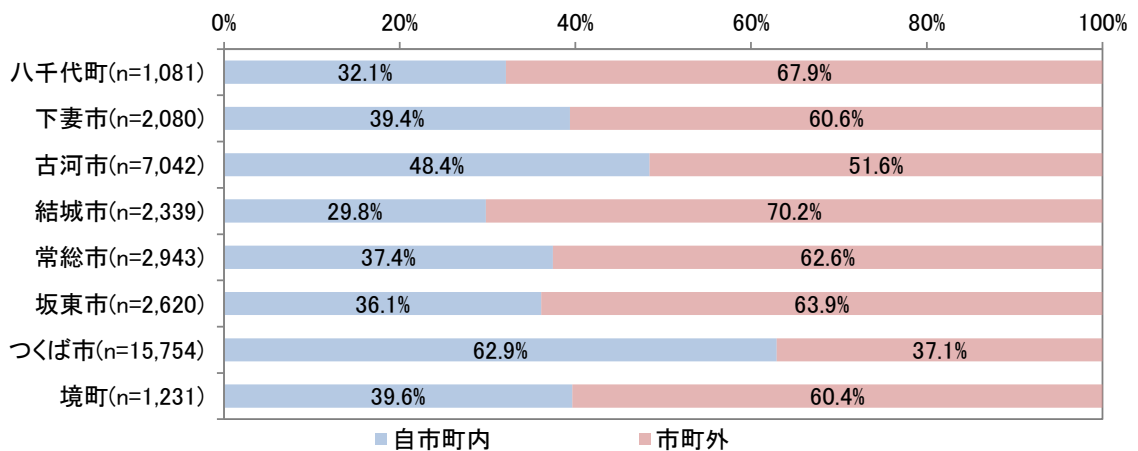
市町名	人数						割合			
	通勤			通学			通勤		通学	
	総数	自市町内	市町外	総数	自市町内	市町外	自市町内	市町外	自市町内	市町外
八千代町	12,071	6,063	6,008	1,081	347	734	50.2%	49.8%	32.1%	67.9%
下妻市	22,476	11,934	10,542	2,080	819	1,261	53.1%	46.9%	39.4%	60.6%
古河市	69,539	43,901	25,638	7,042	3,411	3,631	63.1%	36.9%	48.4%	51.6%
結城市	25,802	13,144	12,658	2,339	697	1,642	50.9%	49.1%	29.8%	70.2%
常総市	32,290	18,298	13,992	2,943	1,102	1,841	56.7%	43.3%	37.4%	62.6%
坂東市	29,098	17,562	11,536	2,620	946	1,674	60.4%	39.6%	36.1%	63.9%
つくば市	94,363	62,390	31,973	15,754	9,912	5,842	66.1%	33.9%	62.9%	37.1%
境町	12,983	7,105	5,878	1,231	488	743	54.7%	45.3%	39.6%	60.4%

図 常住地による従業地



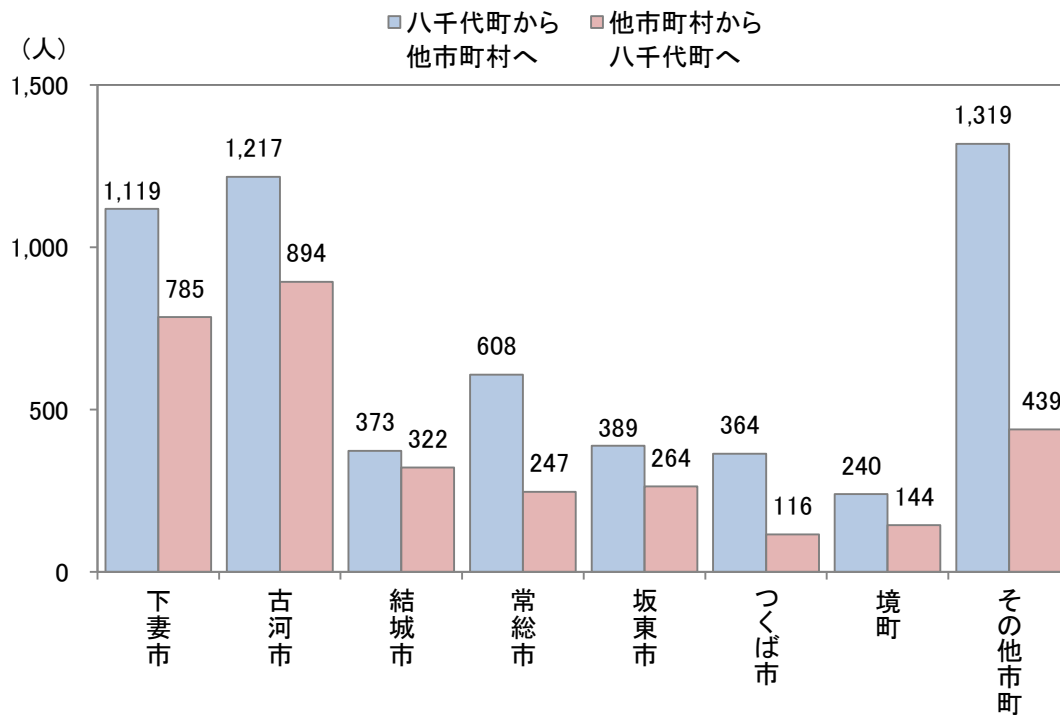
【出典】平成 27 年国勢調査

図 常住地による通学地



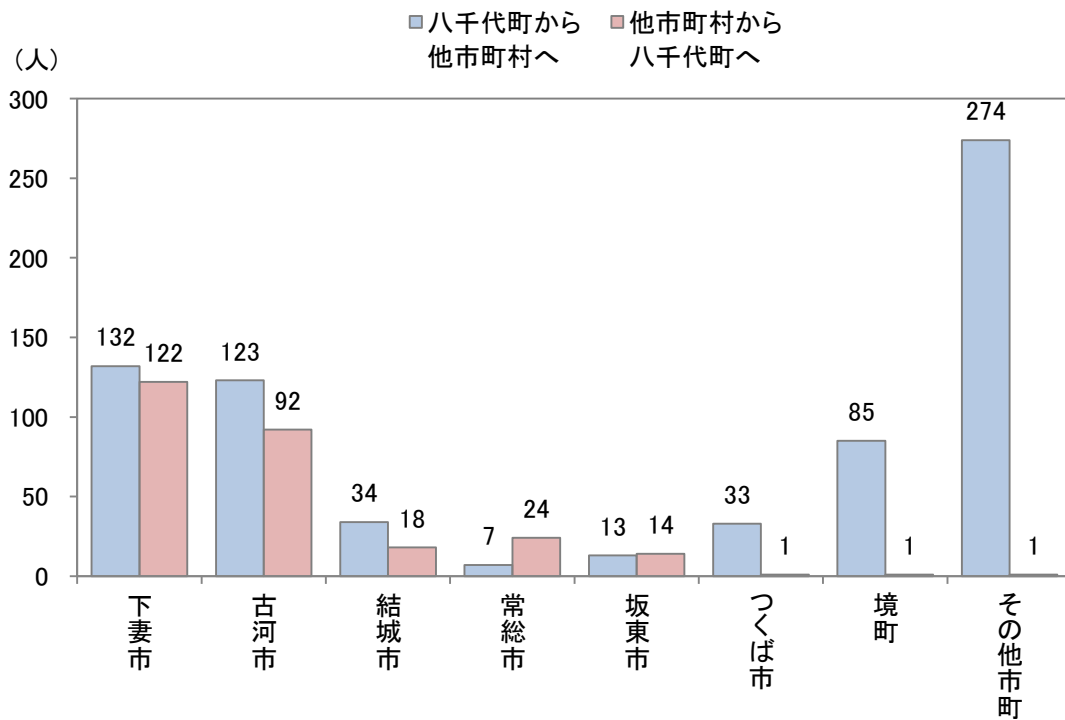
【出典】平成 27 年国勢調査

図 通勤における流動状況



【出典】平成 27 年国勢調査

図 通学における流動状況



【出典】平成 27 年国勢調査

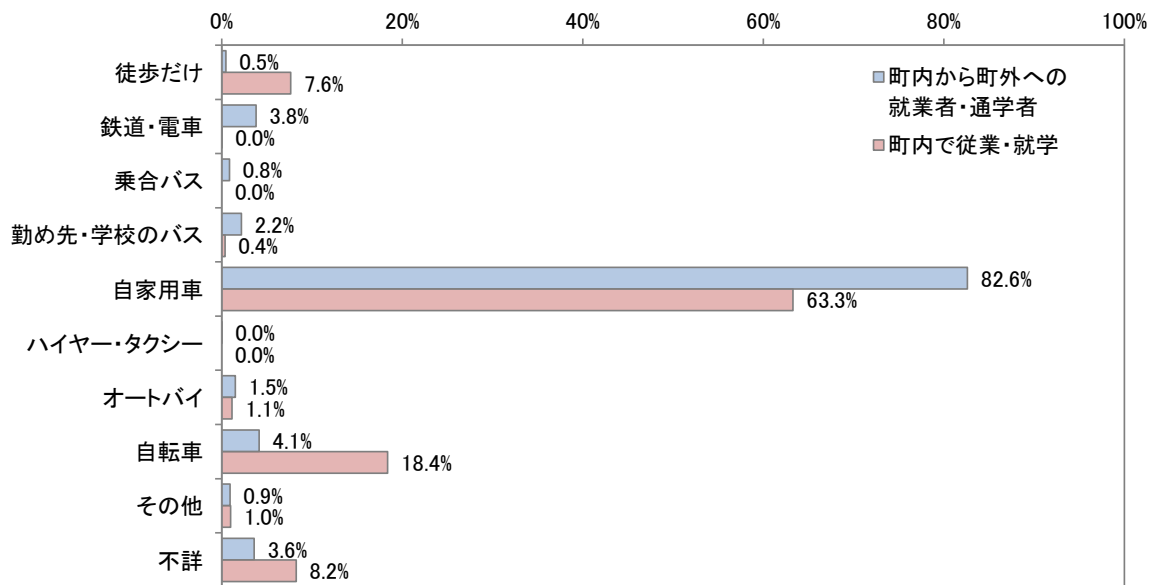
- 「町内から町外への就業者・通学者」の移動手段は、自家用車が最も多くなっています。
- 「町内で就業・就学」でも、自家用車が最も多く、次いで、自転車、徒歩だけとなっています。

表 通勤・通学の手段

(単位:人)

手段	人数		割合	
	町内から町外への 就業者・通学者	町内で従業・就学	町内から町外への 就業者・通学者	町内で従業・就学
徒歩だけ	32	217	0.5%	7.6%
鉄道・電車	266	1	3.8%	0.0%
乗合バス	59	0	0.8%	0.0%
勤め先・学校のバス	152	10	2.2%	0.4%
自家用車	5,789	1,799	82.6%	63.3%
ハイヤー・タクシー	1	0	0.0%	0.0%
オートバイ	104	32	1.5%	1.1%
自転車	289	522	4.1%	18.4%
その他	64	28	0.9%	1.0%
不詳	252	234	3.6%	8.2%
従業者・通学者総数	7,008	2,843	100.0%	100.0%

図 通勤・通学の手段



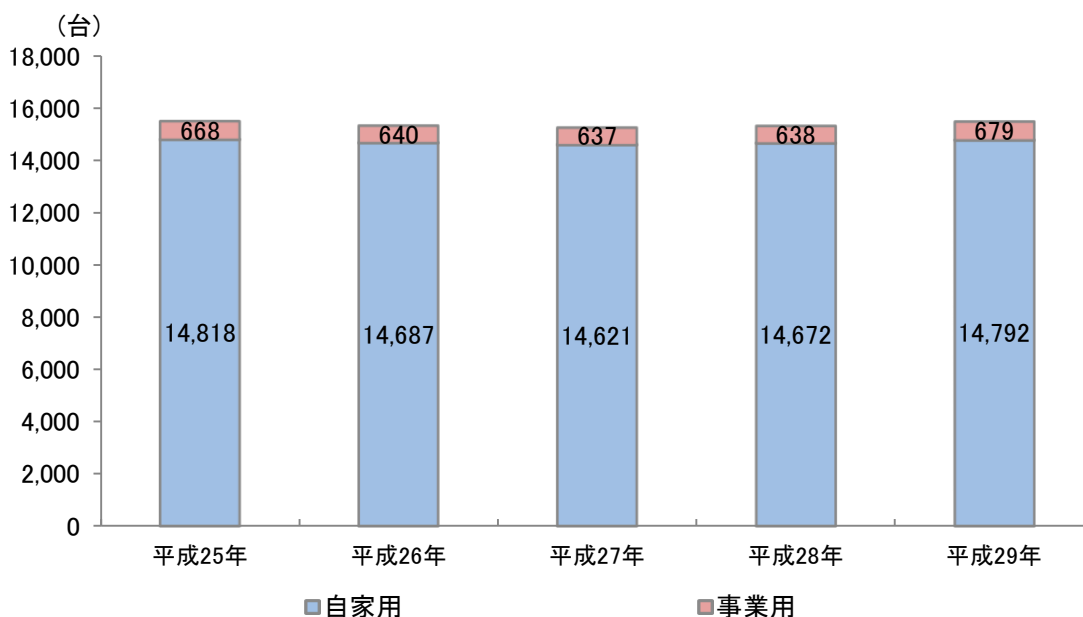
【出典】平成 27 年国勢調査

1-4 自動車及び免許保有状況

1) 自動車の保有状況

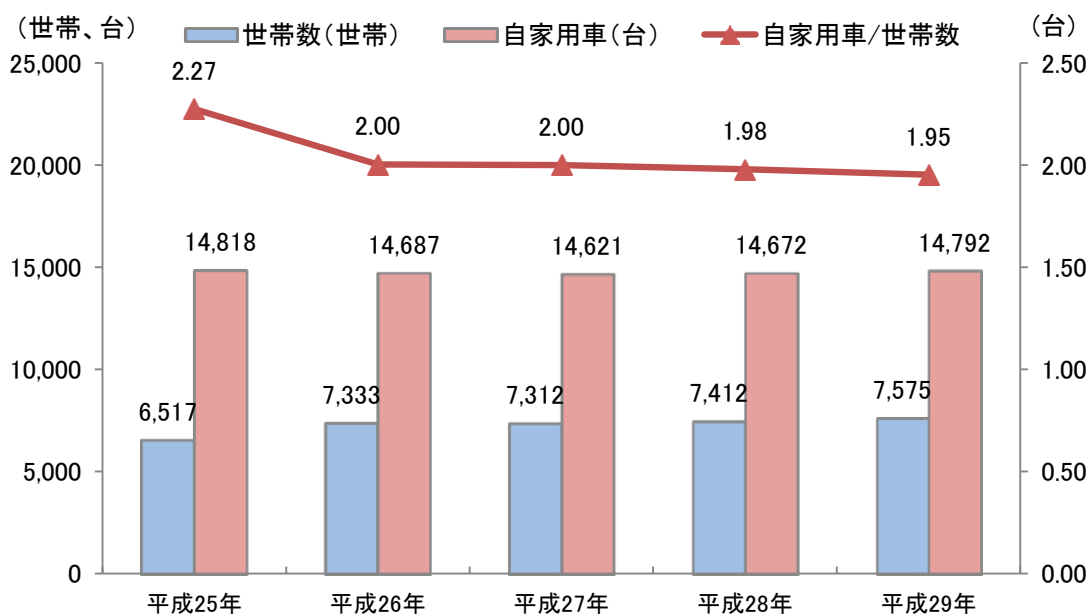
○自家用車の保有状況はほぼ横ばいで推移しており、平成29年時点で14,792台となっており、1世帯あたりの自家用車保有台数は約2台となっています。

図 八千代町の自動車保有状況の推移



【出典】 関東運輸局統計情報

図 八千代町の一世帯あたりの自家用車保有台数の推移



【出典】 関東運輸局統計情報

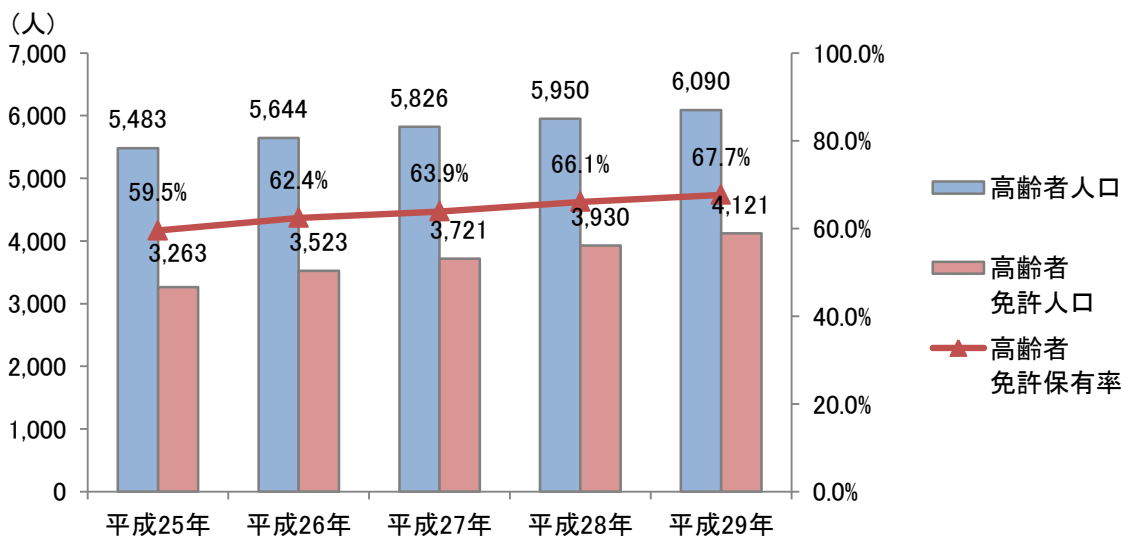
2) 高齢者の自動車運転

○高齢者の免許保有人口は増加を続けており、高齢者免許保有率は6割以上となっています。
 高齢者免許保有人口の増加に伴い、高齢者の交通事故発生率が高く、平成28年度では約43%となっています。

○高齢者の交通事故発生率の増加に対して、免許返納対策への取り組みを検討しており、平成29年度には40人の免許返納が見られます。

①高齢者（65歳以上）の免許保有状況

図 八千代町の高齢者（65歳以上）の免許保有状況の推移



【出典】茨城県警交通事故関係統計・分析

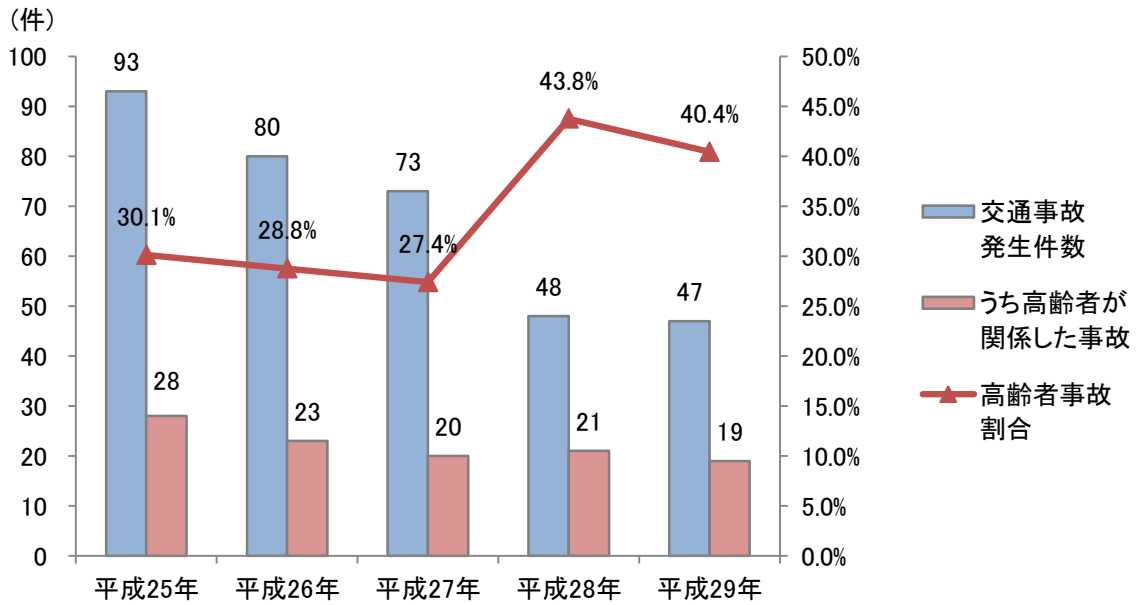
表 八千代町の高齢者（65歳以上）の免許保有状況の推移

(単位: 人)

	高齢者人口	高齢者免許人口	高齢者免許保有率
平成25年	5,483	3,263	59.5%
平成26年	5,644	3,523	62.4%
平成27年	5,826	3,721	63.9%
平成28年	5,950	3,930	66.1%
平成29年	6,090	4,121	67.7%

②高齢者（65歳以上）の交通事故発生状況

図 八千代町の高齢者（65歳以上）の交通事故発生状況の推移



【出典】茨城県警交通事故関係統計・分析

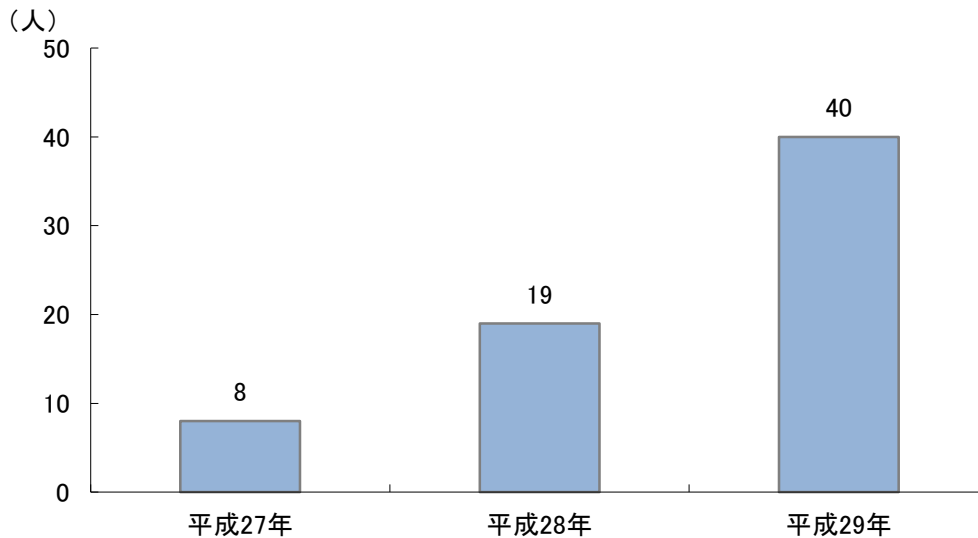
表 八千代町の高齢者（65歳以上）の交通事故発生状況の推移

(単位: 件)

	交通事故発生件数	うち高齢者が関係した事故	高齢者事故割合
平成25年	93	28	30.1%
平成26年	80	23	28.8%
平成27年	73	20	27.4%
平成28年	48	21	43.8%
平成29年	47	19	40.4%

③高齢者の運転免許自主返納の取組み

図 八千代町の高齢者（65歳以上）の運転免許自主返納の推移



【出典】茨城県警察免許センター

1-5 地域公共交通網

1) 公共交通の運行状況

○八千代町には鉄道が通っておらず、主な公共交通機関は JR 古河駅～町役場間の路線バスと町内事業者によるタクシーのみです。その他、スクールバス、町が実施する町内医療機関巡回バス及び福祉タクシー利用料金助成事業となっています。

○医療機関巡回バスは、町内を広く巡回していますが、現在利用している町民は一部の利用者のみとなっています。なお、平成 27 年に周知PRを行ったことにより、平成 25 年以降減少していた利用者は増加に転じ、平成 28 年は約 3 千百人の利用が見られました。

表 公共交通の運行状況

		運行主体	運賃等
路線バス	古河駅～八千代町役場（約 40 分） 町内走行距離 3.7km 停留所 5 箇所 1 時間に往復 1 本程度	茨城急行自動車(株)	距離制
タクシー		(有)沢木交通	距離制
スクールバス	下妻一高、下妻二高、八千代高校などで実施		有料
医療機関巡回バス	曜日ごとに 3 コース（日曜日を除く） 町内医療機関を巡回（午前は巡回、午後は送迎のみ） 主な医療機関：八千代診療所、八千代病院、佐々木整形外科医院、菊山医院	(有)沢木交通	無料
福祉タクシー利用料金助成事業	対象者：障害者や高齢者のみの世帯で 所得税非課税世帯の者など		初乗り運賃を助成

図 医療機関巡回バスの利用状況

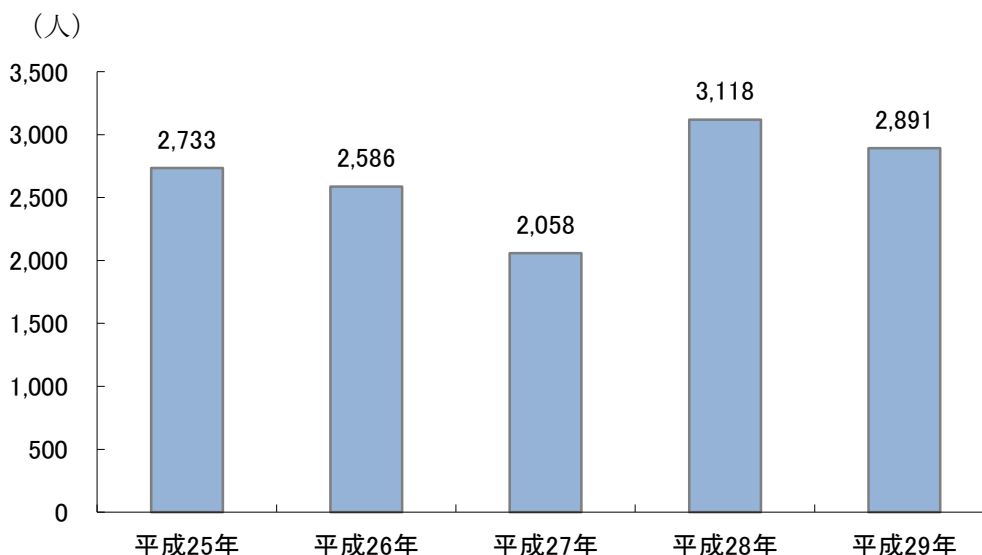
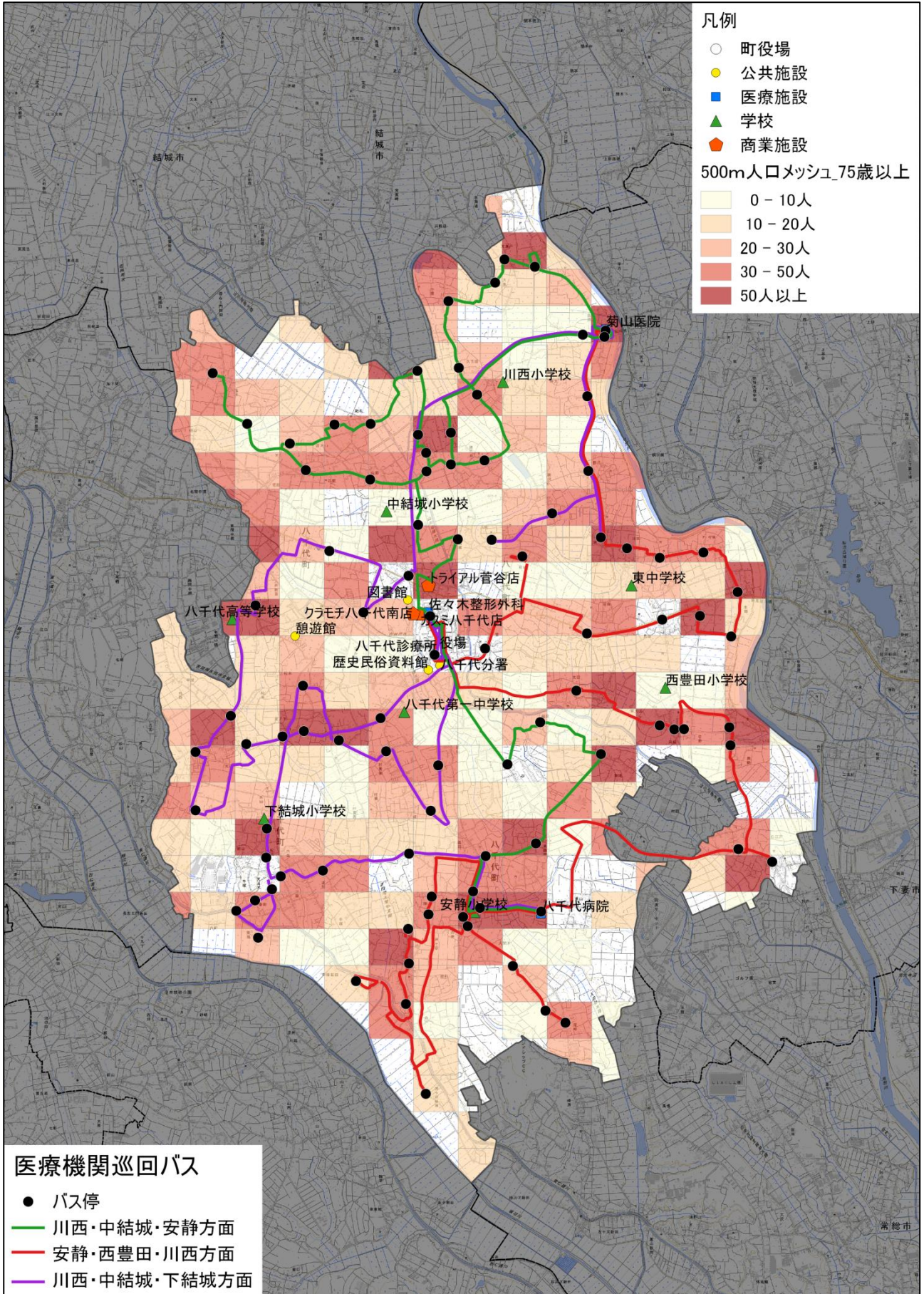


図 医療機関巡回バスの路線図

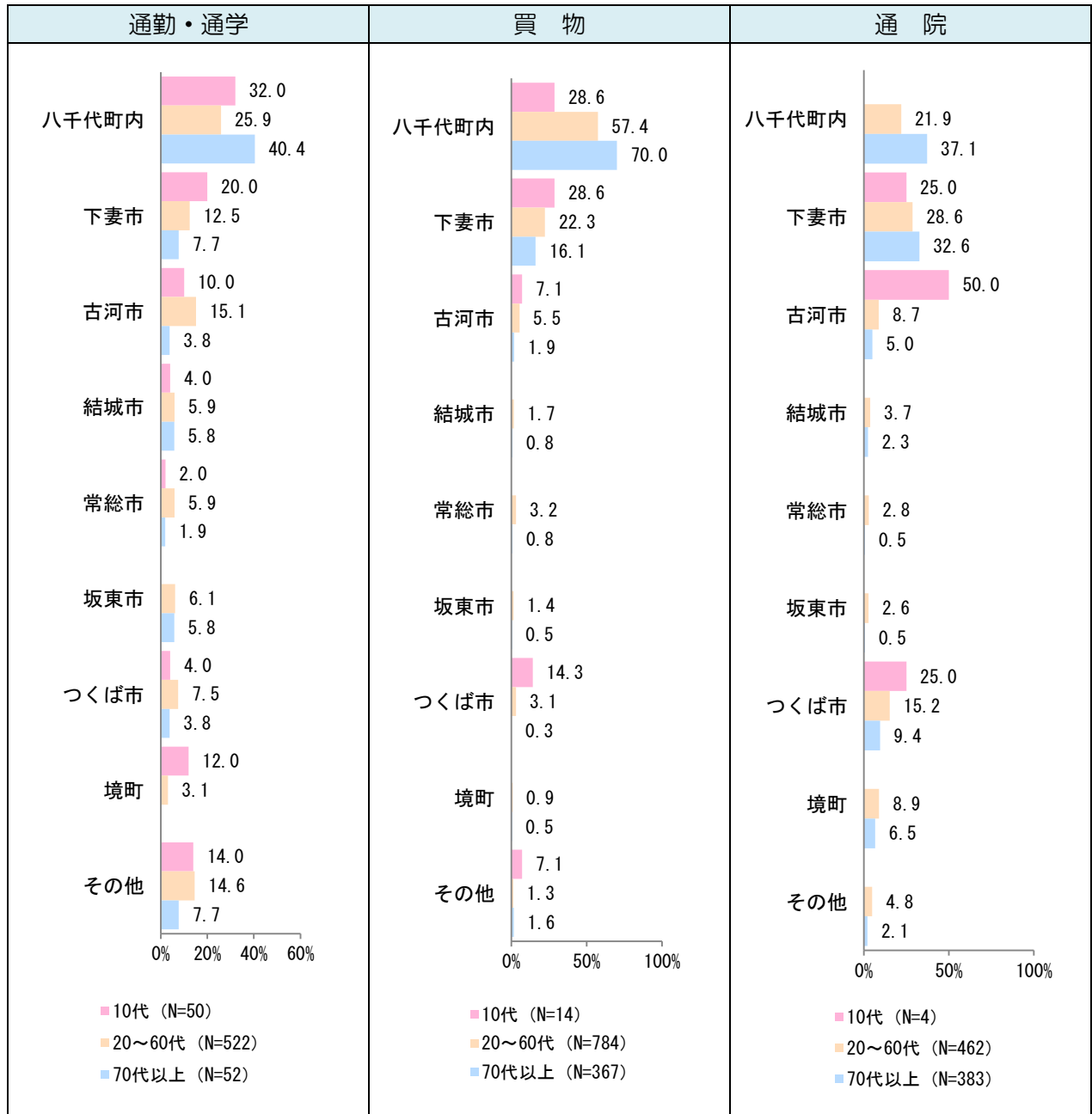


2. アンケート調査結果からみる公共交通のニーズ

2-1 住民アンケート結果

1) 日常生活における主な行き先

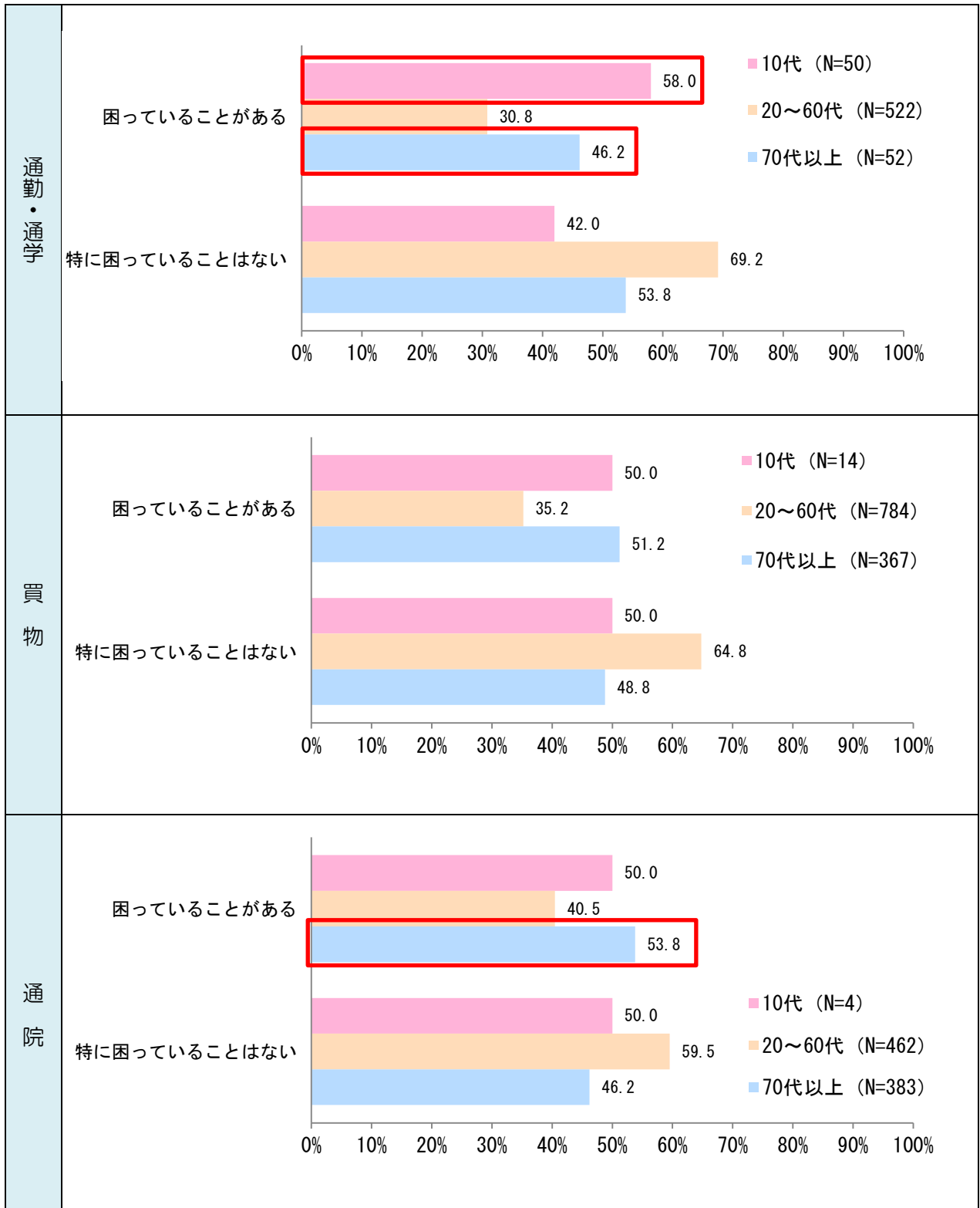
○いずれの年代も町内の移動が多く、次いで下妻市への移動が多い状況です。
 ○70代以上の高齢者については、買い物は町内が7割を占めていますが、通院は八千代町が37%、下妻市が33%と同程度となっています。



2) 外出の際に困っていること

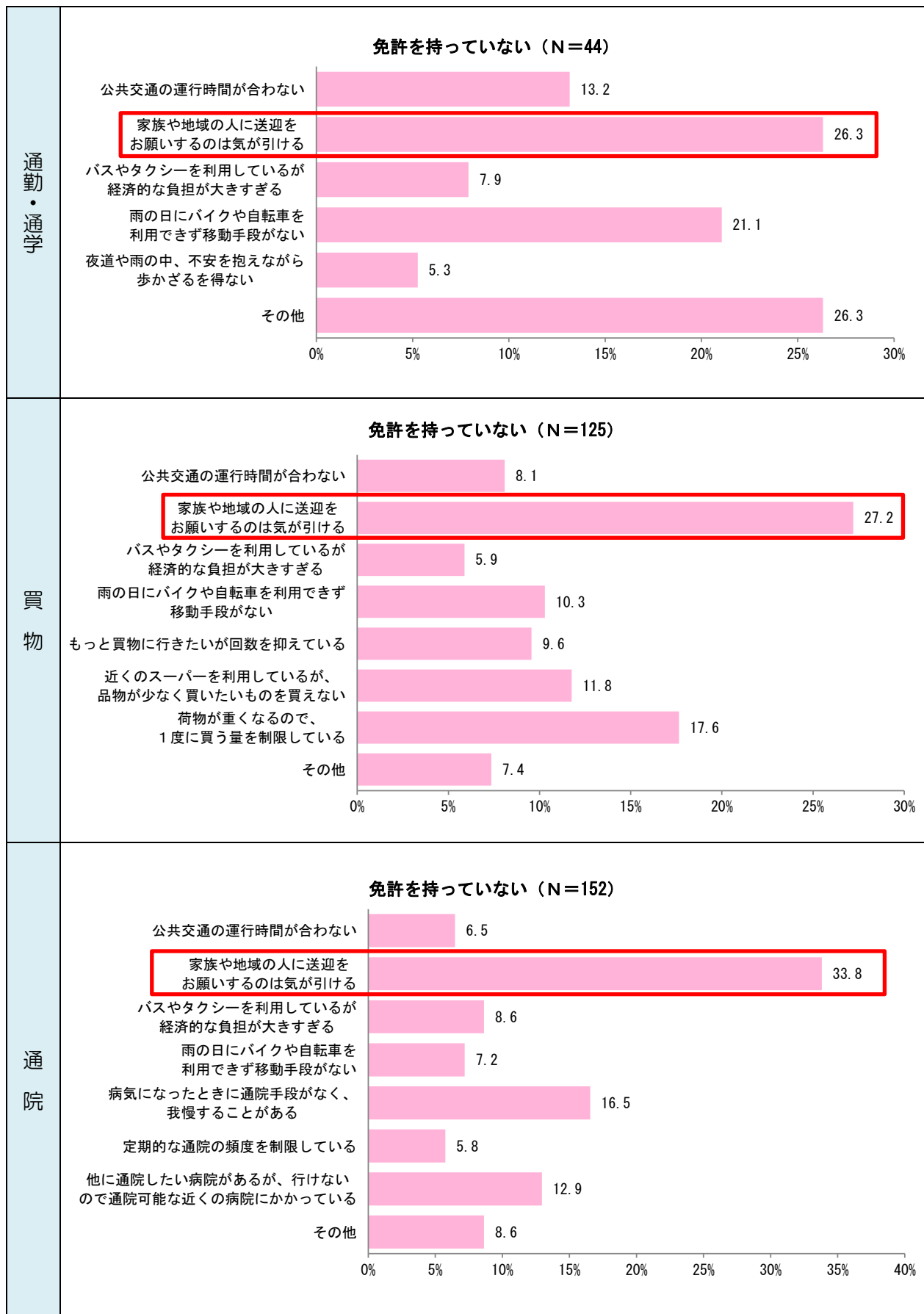
①年代別

○10代と70代以上といった、運転免許を保有していない割合が高い交通弱者は、外出の際に困っていることがあるとの回答割合が高くなっています。
 ○10代は、通勤・通学の際に困っている割合が高く、70代以上は、通院の際に困っている割合が特に高くなっています。



②免許非保有者

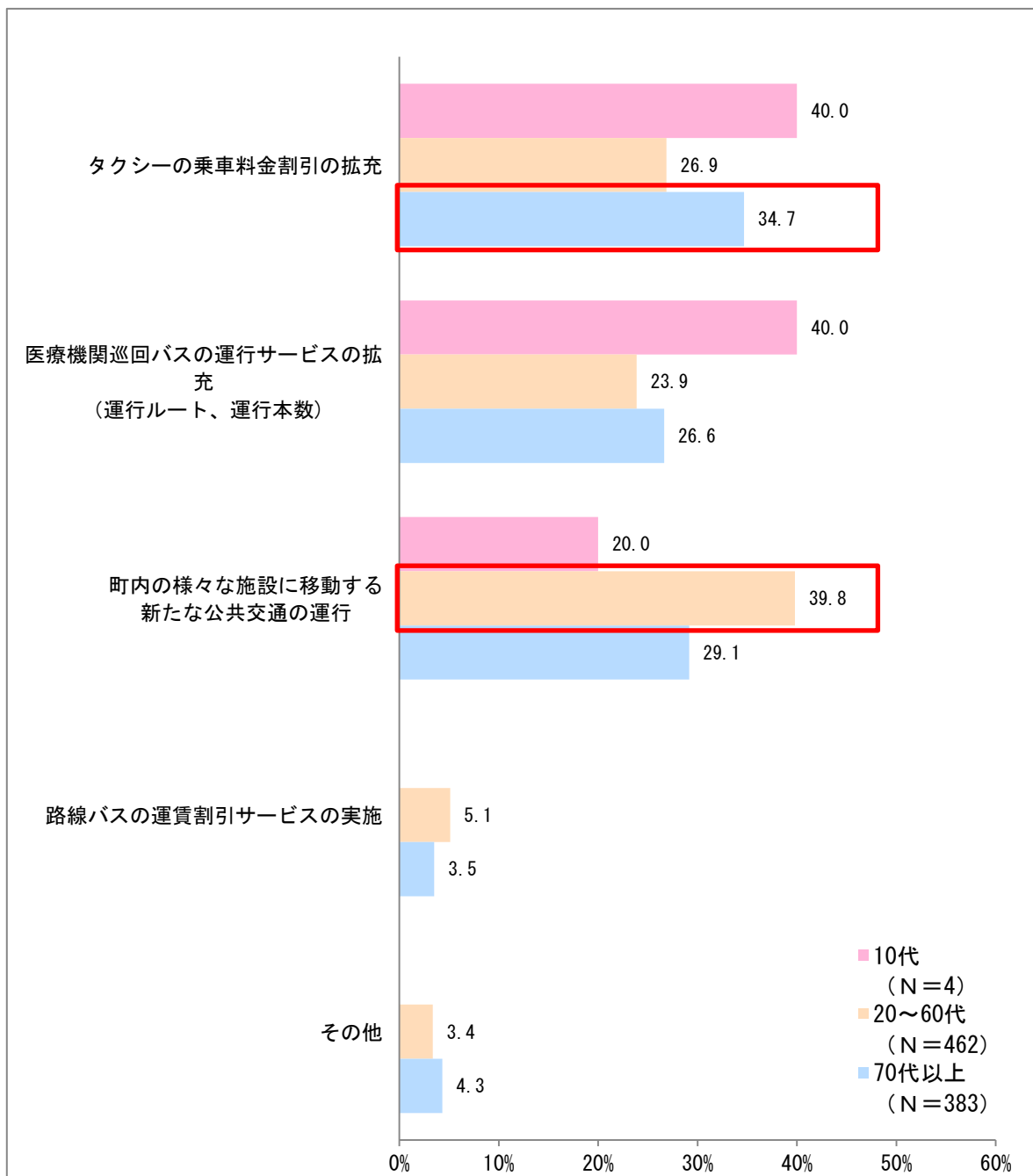
○免許非保有者の困っていることは、「家族や地域の人に送迎をお願いするのは気が引ける」との割合が高く、行きたい場所に公共交通が運行していないことが影響していると想定されます。



3) クルマを運転できなくなったとき利用したい公共交通サービス

○70代以上の高齢者は、「タクシーの乗車料金割引の拡充」を望む割合が高く、タクシーのようなドア・ツー・ドアのサービスを望んでいることが想定されます。

○20～60代は、「町内の様々な施設に移動する新たな公共交通の運行」を望む割合が高くなっています。



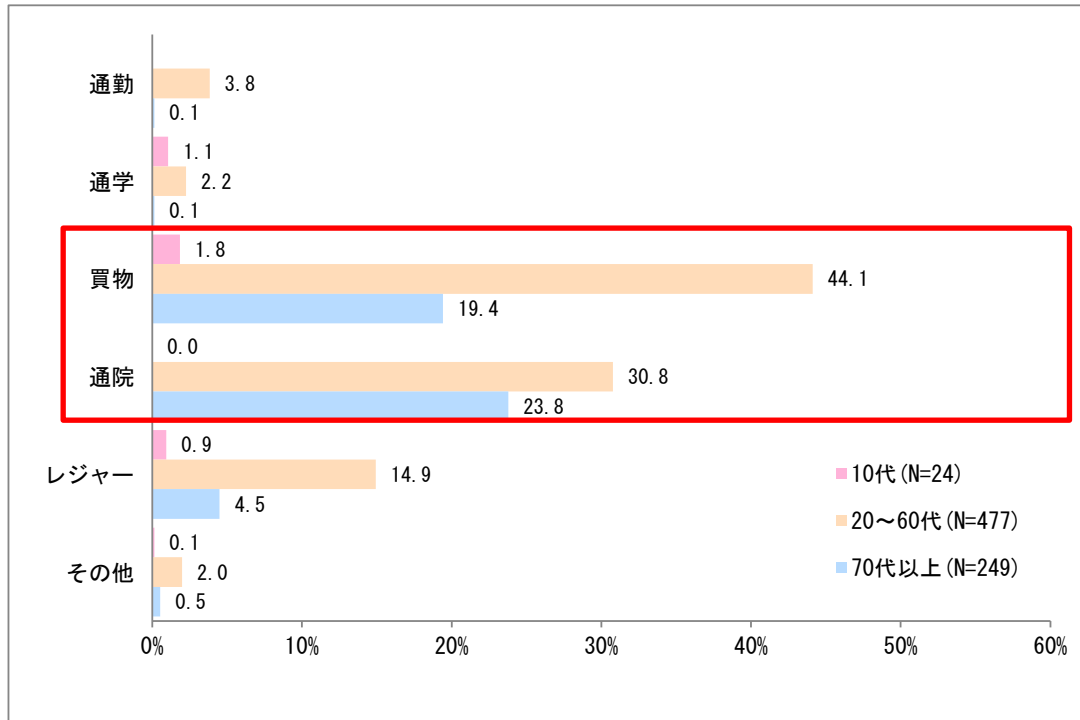
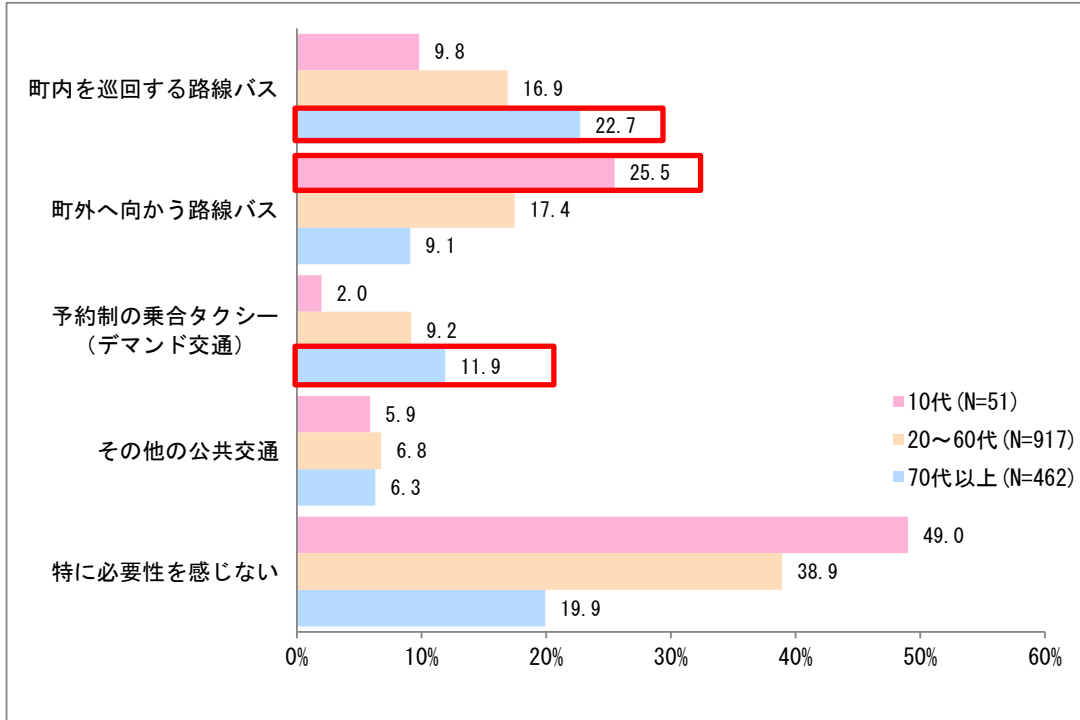
4) 便利だと思う公共交通

①年代別

○70代以上の高齢者は、町内を巡回する路線バスを望む割合が最も高く、次いで予約制の乗合タクシー（デマンド交通）となっています。

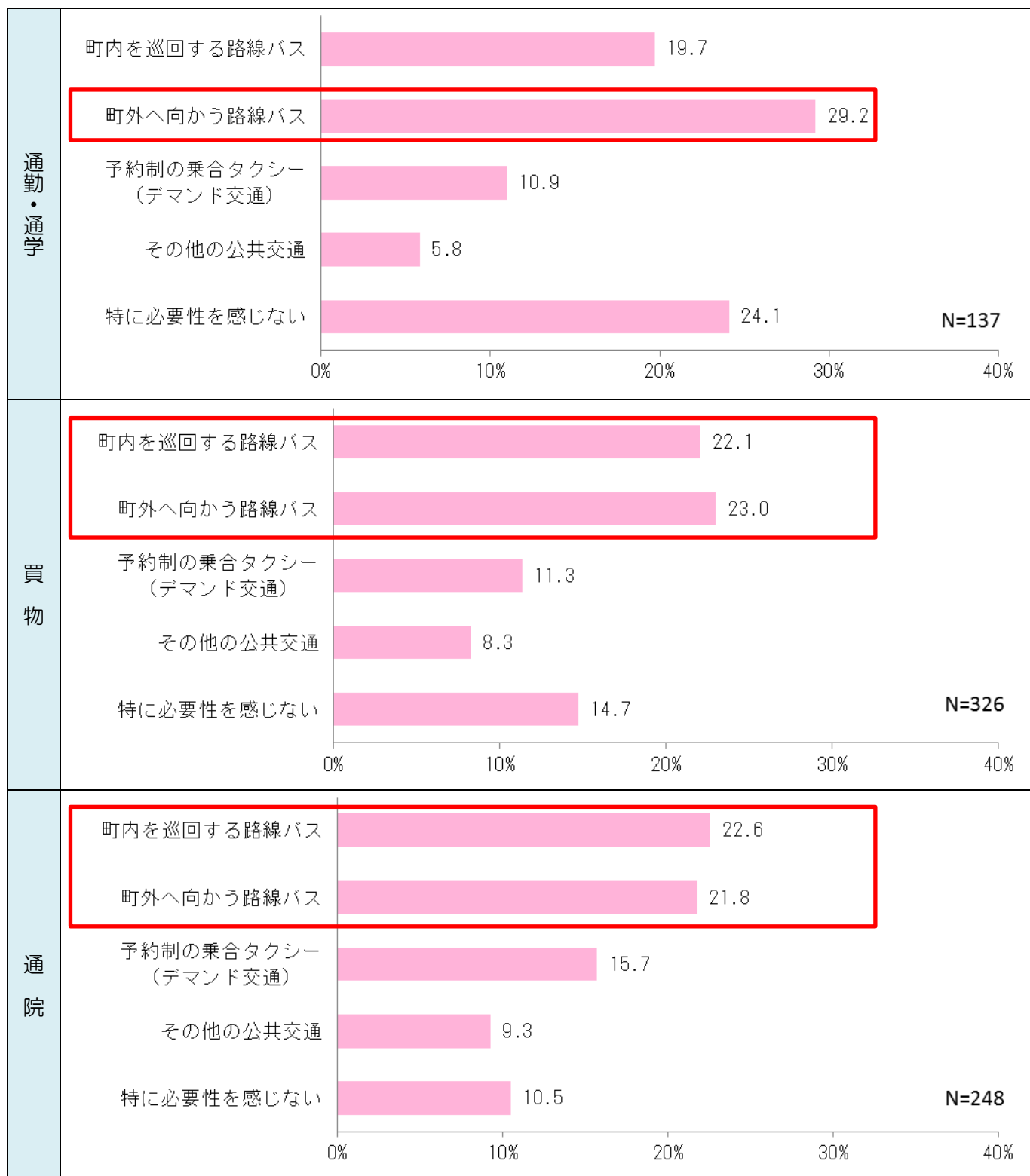
○一方、10代は、町外へ向かう路線バスを望む割合が高くなっています。

○利用したい目的では、通院、買物目的での利用を望んでいます。



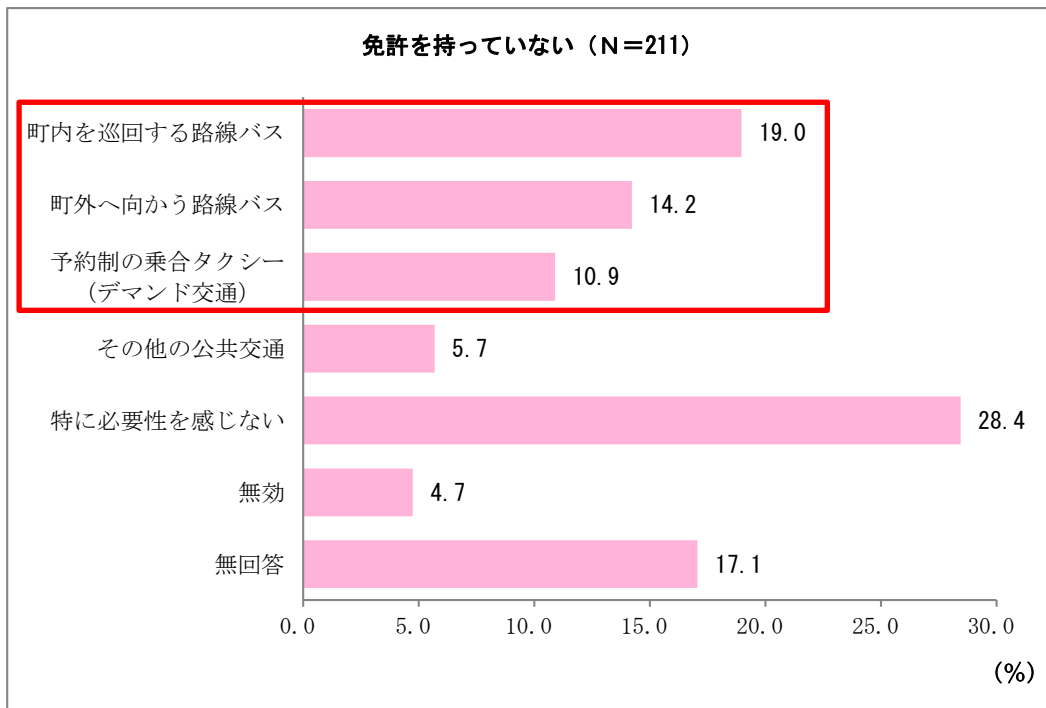
②外出の際に困っている人

○通勤・通学の際に困っている人は「町外へ向かう路線バス」を望む割合が多くなっています。
 ○買物および通院の際に困っている人は、いずれも「町内を巡回する路線バス」と「町外へ向かう路線バス」を望む割合が高く、同じくらいの割合になっています。



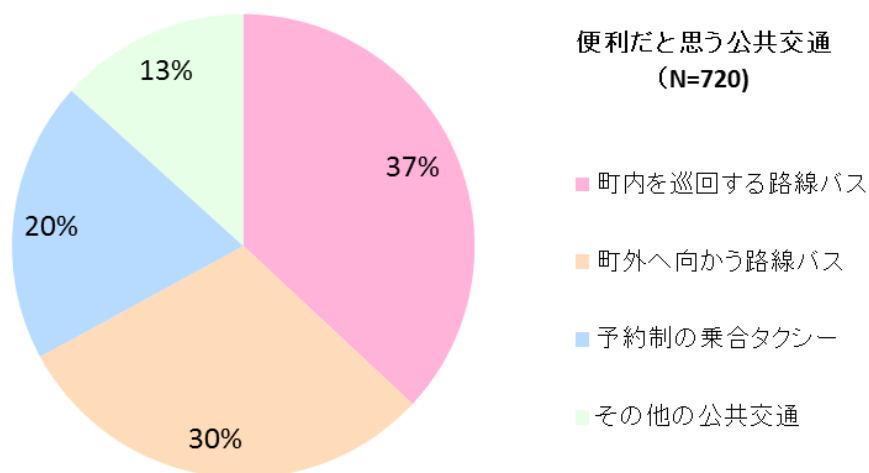
③免許非保有者

○免許非保有者を見ると、町内を巡回する路線バス、町外へ向かう路線バス、予約制の乗合タクシー（デマンド交通）のそれぞれを望む回答が見られます。



5) 体系別にみる便利だと思ふ公共交通の利用

○利用したい目的では、「各バス」で買物に利用したいと答えた方が通院を上回っているのに対し、「乗合タクシー」では通院に利用したいと答えた方が買物を上回っています。
 ○利用頻度では、「町内を巡回するバス」が最も利用頻度が高いと見込まれ、次いで「乗合タクシー」となっており、「町外へ向かう路線バス」は利用頻度が少ないと想定されます。
 ○希望する運賃では、「町内を巡回する路線バス」が100～200円、「町外へ向かうバス」が300～500円、「乗合タクシー」が300～500円の運賃設定がそれぞれ望まれています。



①町内を巡回する路線バス N=266

	1位		2位		3位	
	買物	75.6%	通院	61.7%	レジャー	12.4%
利用したい目的	買物	75.6%	通院	61.7%	レジャー	12.4%
利用頻度	週2～3回	33.5%	週1回	30.5%	月1回	18.0%
希望する運賃	200円	28.2%	100円	27.4%	300円	20.7%

②町外へ向かう路線バス N=217

	1位		2位		3位	
	買物	63.1%	通院	41.5%	レジャー	34.6%
利用したい目的	買物	63.1%	通院	41.5%	レジャー	34.6%
利用頻度	週1回	30.0%	月1回	26.3%	年に数回	16.1%
希望する運賃	500円	34.1%	300円	27.9%	200円	12.4%

③予約制の乗合タクシー N=141

	1位		2位		3位	
	通院	79.4%	買物	65.2%	レジャー	14.9%
利用したい目的	通院	79.4%	買物	65.2%	レジャー	14.9%
利用頻度	週1回	42.6%	週2～3回	23.4%	月1回	20.6%
希望する運賃	500円	41.1%	300円	23.4%	100円	14.2%

④はタクシー券、鉄道、スクールバス等。今回は票数が少ないため省略。

2-2 関係者ヒアリング調査

- 交通事業者からは、新路線の検討や新たな公共交通の導入について協力的な意見を頂きました。
- 高齢者の主な外出先は目的によって場所が異なり、買い物は町内が多く、通院は町外への移動も多くみられました。デマンド交通や地域を巡回するバスを要望する意見を多く頂きました。
- 商業施設は、現時点においては移動販売や配達サービスなどの計画はないものの、新たな公共交通を導入する際は店舗への乗り入れなどに協力的な意見を頂きました。

交通事業者	<p>【茨城急行自動車株式会社（古河営業所）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八千代町を拠点とした、結城～八千代間、下妻～八千代間、境町～八千代間などの事業計画を営業所独自に調査、検討している。 ・営業所としては、利用者の要望があればできるだけ対応したいと考えている。 <p>【有限会社沢木交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通の導入については、事前予約制であれば、運行は可能と思われる。 ・医療機関巡回バスは1台で運行しているが、デマンド交通を導入する場合、2台以上は必要だと思われる。 ・車両については老朽化している為、新たに購入した方がいいと思われる。 ・タクシー券のサービス拡充などでタクシーの利用促進を併せてお願いしたい。
高齢者団体	<p>【日常の外出状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許保有者が多く、自分で運転して外出している方が多い。 ・免許を保有していない方は、自転車や家族の送迎で外出している。 ・買い物先は町内（カスミ・クラモチ）が多い。 ・診療科によって通院先が異なり町外への通院も多い。 ・町外への通院は古河市やつくば市、境町などが多い。 ・通院頻度は月に1回から2か月に1回程度と通院頻度は少ない。 <p>【公共交通に対する要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関巡回バスについて、通院に限らず買い物や役場へ利用したいという要望がある。 ・健康な方が多く、現在の公共交通に対して不満や要望は少ないものの、将来の移手段については不安を抱えている意見が多い。 ・今後のことを考えると、地区内を巡回するバスや乗り合いタクシーなどを求める意見が多い。
商業施設	<p>【商業施設 A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループとしては移動販売や荷物配達（店舗で購入した後、購入した商品を配達）、インターネット販売を行っているが、八千代町では、今のところニーズは少ないため予定はない。 ・新たに公共交通を運行する際は、店舗の前まで乗り入れてもらっても構わない。 <p>【商業施設 B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点においては、グループ全体として移動販売や配達サービスなどの検討はしていない。 ・新たにバス路線を検討する際には、店舗の前にバス停を設置して頂きたい。

2-3 医療機関巡回バスアンケート調査

- 利用者の多くは、医療機関巡回バスの運行継続を希望しています。
- 一方、医療機関巡回バスのサービス拡充やデマンド交通の導入を求める意見もありました。

1) 医療機関巡回バスに対する要望について（無回答 3 名除く 26 人）

現在のまま、運行を継続してほしい	14 人
運行ルートを改善してほしい	4 人
運行日を改善してほしい	1 人
運行本数を改善してほしい	1 人
バスの車両を改善してほしい	5 人
とくに要望はない	0 人
その他	1 人

【具体的な要望】

- 運行ルートが長いので短いルートを複数箇所に分けて運行してほしい。
- 早い時間帯の運行して欲しい。
- 午後の病院行のバスを運行してほしい。
- バスの乗り降りが大変なので、乗りやすい車両にしてほしい。

2) 今後の運行形態について（無回答 14 名除く 15 人）

医療機関巡回バスのサービスの拡充	12 人
デマンド交通の導入	1 人
その他	2 人

【その他意見】

- 福祉タクシー券のサービスを拡充してほしい。

3.上位・関連計画における公共交通の位置付け

- 上位計画において、日常生活における移動の利便性を確保し、地域活性化につなげていくことを示しており、町民の誰もが移動しやすい環境づくりが公共交通に求められています。
- また、町内の移動だけでなく、町外への広域的な視点での公共交通の維持・確保に努めることとしています。

【第5次総合計画後期基本計画】（計画期間 H28～H32）

施策の方向性： 町民の移動の利便性を図り、日常の交流による地域活性化に資するため、公共交通の維持確保と利用促進を図ります。

【八千代町まち・ひと・しごと創生総合戦略】（計画期間：H27～H31）

- ①公共交通の確保：移動手段を持たない町民等の移動手段を確保し、町民の利便性の向上を図る取り組みを進めるとともに、関係機関や団体と連携して、広域的な視点で公共交通の維持・確保に努めます。

4.八千代町における公共交通のあり方について

4-1 八千代町における公共交通の課題

- 八千代町の上位計画においては、日常の交流による地域活性化を図るため、公共交通の維持確保を図ることとしています。
- しかしながら、八千代町の公共交通は、JR古河駅～町役場間の路線バスと町内事業者によるタクシーのみです。また、町内を医療機関巡回バスが運行していますが、町全域に人口が分布しているため、バス沿線の住民しか利用できず、町民の誰もが移動しやすい環境にあるとはいえません。さらに、医療機関巡回バスは通院目的利用に限定され、日常的な買物に利用することはできない状況です。そのため、さまざまな目的で町内を移動することができる公共交通の確保が必要といえます。
- また、住民の日常的な移動は、町内だけでなく、町外への移動も見られます。特に、70代以上の高齢者の通院先は、町内と下妻市が同程度となっており、これらの移動を支える公共交通の検討が必要といえます。

4-2 八千代町における公共交通のあり方

4-2-1 公共交通ネットワークのあり方

八千代町における公共交通の課題を踏まえると、住民の移動を支える公共交通ネットワークとして次のようなネットワークの形成が必要であると考えられます。

図 八千代町の公共交通ネットワークイメージ



4-2-2 公共交通ネットワーク形成についての検討

住民の移動を支える公共交通ネットワークの形成に対して、まずは町内の移動を支える新たな公共交通の方向性について検討を進めます。

町内の公共交通の整備が終了したら、次のステップとして、地域間（八千代町と町外）を結ぶ公共交通ネットワークの検討を進めます。

<STEP1>

○町内の移動を支える新たな公共交通の方向性の検討

既存の医療機関巡回バスの改善、コミュニティバスの導入、デマンド交通の導入など



<STEP2>

地域間（八千代町と町外）を結ぶ公共交通ネットワークの検討

既存の路線バスの改善、新たな路線バスの運行、町内の公共交通との乗継の強化など

4-2-3 町内の移動を支える新たな公共交通の方向性（医療機関巡回バス再編の方向性）

公共交通ネットワークの形成を進めるにあたり、八千代町内における公共交通のあり方を見直し、町内の移動を支える新たな公共交通の方向性を検討します。

		現行 (医療機関巡回バス)	再編案① (無料巡回バス)	再編案② (エリア別巡回バス)	再編案③ (フルデマンドタクシー)
再編概要		医療機関を巡回する無料のバスを運行	便利だと思える公共交通の問いで「町内を巡回する路線バス」の意見が多かったため、現在の医療機関巡回バスに商業施設を追加して買物にも対応できるようにする。	「現在の巡回バスよりもバス停を増やして欲しい」「巡回バスに乗っている時間が長い」との意見から、エリアを限定して曜日、時間帯別に各地区を定時定路線で巡回し、運行ルートや乗車時間の減少を図る。	「バス停まで遠い」「乗車時間が長い」との意見から、運行ルートやバス停を設けず、予約があったところをドア・ツー・ドアで運行するフルデマンド型乗合タクシーで、町全域を完全にカバーする。
モード別の公共交通		<ul style="list-style-type: none"> 曜日ごとに3コース（月～土） 午前中は定時定路線、午後は自宅まで送迎 <p>無料</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現在の3コースに商業施設（要望の多い町中心部）を追加 午前中は定時定路線、午後は自宅まで送迎 <p>無料</p>	<ul style="list-style-type: none"> 町内を4つのエリアに分け、曜日、時間帯別に町内中心地と各エリアを1時間程度で結び、定時定路線運行 <p>無料</p>	<ul style="list-style-type: none"> 予約時に町内全域を運行 運行時間は8時～夕方（15～17時）（月～土） 朝の時間帯（8～10時）は地区ごとに曜日指定 <p>有料</p>
メリット・デメリット	地域特性の観点	巡回バス沿線から離れている町民は、カバーできない。	△ 巡回バス沿線から離れている町民は、カバーできない。	○ きめ細かなルートを設定するため、現在の巡回バスよりはカバーエリアが広がるものの、全域はカバーしきれない。	◎ 町内全域をカバーできる。
	外出ニーズへの対応の観点	通院目的でしか利用できない。	○ 商業施設をルートに追加することにより、町内における買物移動にも対応できる。	○ 各地区から町中心地を結ぶことにより町内買物移動にも対応できる。 △ 地区間の移動の場合、中心部での乗換えが必要となる。	◎ 町内、全ての場所への移動に対応できる。
	運行サービスの観点	バス停までの移動が必要となるものの、事前予約は必要ない。	△ 巡回バス沿線から離れている町民は、バス停までの移動が必要になる。 △ 商業施設を追加することにより、運行時間が長くなる可能性がある。	○ きめ細かなルートを設定するため、移動距離は短くなるものの、バス停までの移動が必要となる。 △ エリア別の運行となるため増車の必要がある。	◎ 自宅の前まで迎えに来てくれる。 △ 事前に予約が必要となる。増車の必要がある。予約が集中した場合、乗車まで時間がかかる。
	車両の観点	ワゴン車1台（予備1台）	○ ワゴン車1台	△ ワゴン車2台	△ ワゴン車1台、道路幅員が狭いエリアも運行できるセダン車1～2台
	費用の観点	年間830万円の経費で運行	○ 初期費用：車両の老朽化に伴う車両購入 ◎ 運行経費：現在と同程度	△ 初期費用：バス停留所設置費用及び増車に伴う新規車両購入及び車両の老朽化に伴う車両購入 △ 運行経費：2台運行により、運行三費（人件費、燃料費、修理費）が必要。年間1,600万円程度の経費で運行。	△ 初期費用：増車に伴う新規車両購入及び車両の老朽化に伴う車両購入 △ 運行経費：2～3台運行により運行三費（人件費、燃料費、修理費）＋オペレーターの人件費が必要。年間1,600～2,500万円程度の経費で運行。ただし、運賃収入が得られるため、全額を負担するわけではない
総合評価			<ul style="list-style-type: none"> 利用者は、無料で事前予約なしで利用できるものの、自宅からバス停までの移動が必要となり、バス路線沿線の町民しかサービスを受けない。 運行経費は、現行と同程度で運行できるため、行政の負担は少ない。 運行準備は、現在の巡回バスの一部ルート変更で対応できるため、短期間で対応できる。 要望対応は、「バス停まで遠い」、「時間が合わない」、「乗車時間が長い」などに対応できない。 利用者がいなくても運行しなくてはならないため非効率な面があることや、バス停を設置する商業施設の選定で不公平感が出る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者は、事前予約なしで利用でき、バス停までの移動距離は現在よりも近くなる町民は増加する。また、短時間で町中心部まで移動でき、利便性は向上する。 運行経費は、車両2台で運行するため、運行経費は増加する。 運行準備は、新たな運行ルートの設定、バス停の設置などが必要になる。 要望対応は、「バス停まで遠い」、「乗車時間が長い」などは、ある程度対応できるものの限界がある。「時間が合わない」などの要望には応えられない。 利用者がいなくても運行しなくてはならないため非効率な面があることや、バス停を設置する商業施設の選定で不公平感が出る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者は、自宅から町内の行きたい場所まで、ドア・ツー・ドアで移動できるため利便性は高い。 運行経費は、運賃収入は見込めるものの、車両2～3台の運行経費及び予約を受け付けるオペレーター人件費で増加する。 運行準備は、利用前に予約が必要となるため、町民への丁寧な説明が必要となる。 要望対応は、「バス停まで遠い」、「時間が合わない」、「乗車時間が長い」などに対応でき、町内全域に人口が分布している八千代町の地域特性に対応ができる。 利用者がいない場合は運行しないため効率的であるが、予約が集中する時間帯は乗車まで時間がかかる。町内全域の施設に停車可能であり、不公平感はない。

4-2-4 地域間を結ぶ公共交通ネットワークの検討

八千代町と周辺市町村を結ぶ広域路線バスの維持、確保を目指し、関係自治体や交通事業者との連携を図っていきます。

また、町内の公共交通と広域路線バスとを接続する交通結節点の整備の検討も進めていきます。

【検討項目（案）】

- 既存の古河駅から八千代町役場の路線バスの維持およびルートの再編
⇒ニーズ調査、高校生の利用拡充（八千代高校を経由したルート案の検討）等
- 八千代町から下妻市を結ぶ公共交通の確保
⇒ニーズ調査、関係者協議等
- 町内の公共交通と広域路線バスとの連携

- 交通結節点の整備
⇒古河市から下妻市間までを結ぶ交通結節点の整備を推進